広報

まくべつ

わたしたちのまち

（昭和58年8月1日現在）

人　口	21,523	（＋52）
男	10,601	（＋10）
女	10,922	（＋42）
世帯数	6,433	（＋13）

――人のうごき（7月中）――

転入	80人	転出	51人
出生	28人	死亡	5人

生きる喜びを創造するまち・幕別町（新総合振興計画）

2人合わせて172歳

五位に住む村田辰雄さん（89歳）、妻・フデさん（83歳）夫婦はそろって長寿です。辰雄さんはときどき畑に足を運び、フデさんは庭の草取りが楽しみな、とても元気なおじいちゃんとおばあちゃんです。

58年9

No.380

●発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(0155)54－2111 ●編集・企画財政課広報広聴係☎内線349 ●印刷・ソーゴー印刷

明るく豊かな老後を

人はだれしも年を取り、やがては皆さんの両親・親族も一歩ずつお年寄りの仲間入りをしていくものです。
老後の問題は、決してお年寄りだけの問題ではありません。九月十五日の敬老の日だけにとどまらず、明るく豊かな老後を築くために、いま一度みんなでじっくり考え直してみましょう。

進みいく高齢化社会

日本人の平均寿命が毎年延び、もはや「人生七十年」はあたりまえのことになりました。このような平均寿命の延びは、たいへん喜ばしい限りですが、一方、手放しで喜こんでいるわけにはいかない面が出始めていることも現実です。

その一つに、高齢化社会の問題が挙げられます。現在、本町の六十五歳以上のお年寄りは二千二百十八人います。これは総人口の一〇・四%で、昨年よりも百七人増え、年々、高齢化が進んでいます。

また、全国的にも同じ傾向にあって、三十二年後の昭和九十年には、二〇%を超えると予想されています。

このように、高齢化社会が急速に到来することにより、高齢者福祉問題は、私たち自身の問題として捕え、真剣に取り組まなければならない大きな社会問題といえます。

生きがいのある豊かな老後を過ごすには、どうしたら良いのでしょう。多くのお年寄りの声に耳を傾けてみると、お年寄りの願いは決して年金の増額や医療福祉の充実だけではないことがわかります。

お年寄りの皆さんは、長年培った知識、人生体験を生かして、社会の一員としての役割りを果たしたいと願っています。よりこころ豊かな生活をしたいとも願っています。そのためにも、よりよく生活するための学習の機会の提供、お年寄りが活動をしたり、心を休めるための環境づくりを推進することが重要になってきます。

町では、皆さんが学習する場としての一つに「しらかば大学」を開いています。ここでは、趣味の陶芸、園芸、手芸の活動を中心に、多くのかたがたが学んでいます。

このほか、老人福祉センターを核として、生きがいを高める活動の定着化と健康相談の実施をしています。また、ゲートボール場の整備を図っています。

米寿おめでとう

(50音順に掲載)

猪股 タカさん (札内あかしや町)

福島県で生まれ、十二歳の時に札幌に来る。現在は一人息子の家でいっしょに暮らし、家から近い幕別温泉へ、友だちと一日置きに歩いていくのが楽しみとか。

大須賀とみさん (美川)

愛知県で生まれ、二十四歳の時に結婚してすぐ、美川に入植。現在は、ひ孫を相手に遊ぶのが楽しみで、そのほかは、テレビを見ることが好きで、相撲は見逃がさない。

小笠原クマさん (緑町)

香川県で生まれ、六歳の時に軍岡に入植。若い時から働くことが好きで、今でも、縫い物などは自分でしている。現在は、娘といっしょに暮らしている。

まくべつ長寿番付 (S58.8.20現在)

	東方			西方		
横綱	和田リン 96歳 (依田)			渋谷ノブ 94歳 (札内桂町)		
位置	氏名	年齢	住所	氏名	年齢	住所
大関	長屋志ゃう	94	宝町	佐藤ミキ	93	中里
関脇	井川なみ	93	旭町	堀川保	92	宝町
小結	岡田義一	92	札内春日町	山口ちゑ	92	古舞
前頭	小林貞子	91	依田	前田うの	91	札内中央町
同2	時田たつ	91	西和	二川ヤイ	91	幸町
〃3	柴田幸太郎	91	途別	梅田ヨ子	91	札内あかしや町
〃4	松原はる	91	依田	土田シケ	91	寿町
〃5	磯部なみ	91	千住	長谷川志げを	91	依田
〃6	古酒イシ	90	新町	北川長之助	90	千住
〃7	山中ステヨ	90	猿別	石森ちとし	90	依田
〃8	只野正美	90	札内春日町	木村ミヨ	89	依田
〃9	晒谷ちよ	89	札内豊町	国枝幸吉	89	中里
〃10	長瀬きく	89	駒畠	高橋さぎ	89	緑町

(敬称略、同年齢は生年月日による)

小笠原ナヨさん（軍岡）

猿別で生まれ、以来八十七年間、幕別に住んでいる。ふだんはテレビを見たり、草取りをしている。とっても話し好きで、元気のいいおばあちゃん。

小川長太郎さん（猿別）

香川県で生まれ、十一の時に茂発谷へ入植。二年ぐらい前までは晩酌をやっていたが、今は健康に気を使ってやめている。月二回、老人福祉センターへ行くのが楽しみ。

折笠　トミさん（軍岡）

福島県で生まれ、二十歳の時に猿別に入り結婚。一年前までは草花の手入れや草取りをしたが、近ごろは足が弱くなって、寝たり起きたりの毎日を送っている。

片山たつゑさん（中里）

富山県で生まれ、十六歳の時に南勢に入植。今でも目がいいので、編物をやっている。あとは、散歩や庭の手入れをしたり、老人福祉センターに行くのが楽しみ。

清信　アキさん（明野）

福島県で生まれ、二十四歳の時に夫と明野に入植。現在は豊頃の病院で療養中だが元気はいい。テレビを見るのが好きで特にプロレスの大ファンである。

佐伯　岡蔵さん（札内泉町）

愛媛県で生まれ、八歳の時に留萌に入植。その後、道内各地に住み、五十二年に幕別に来る。老夫婦二人暮らしなので、子供が遊びに来てくれるのが楽しみ。

土屋　庄吉さん（旭町）

山形県で生まれ、三歳の時に旭川に入地。昭和元年に樺太に渡り、二十二年に更別で農業を営む。趣味は木彫りをすることで、自宅の横には作業小屋も持っている。

戸島　もんさん（札内北栄町）

岐阜県で生まれ、十歳の時に音更に入植。三年ぐらい前から寝たきりになっているが、目が覚めている時は、ラジオを聞いている。特に政治には関心がある。

永井　ユキさん（緑町）

渡島管内八雲町で生まれ、三十二歳の時に幕別に来て、八年間魚屋を営む。四十歳からは現在地に住んでいる。テレビを見ることや散歩が好きである。

中村　賢二さん（五位）

富山県で生まれ、三歳の時に五位に入植。以来、十年前までは農業をしていたが、今は札内で夫婦二人でのんびり暮らしている。孫が遊びに来るのが楽しみ。

西嶋　ユキさん（新川）

秋田県で生まれ、三十四歳の時に明倫に入植。昭和三十五年からは現在地に住んでいる。ふだんは、家の周りの草取りをしたり、ひ孫と遊ぶのが楽しみ。

平出　やすさん（寿町）

三重県で生まれ、十歳の時に池田に入地。二十五歳から四十年以上もの間、本町でてい鉄屋を営む。近所の友人の家へ遊びに行って、昔話をするのが楽しみ。

本内きねよさん（札内中央町）

宮城県で生まれ、二十一歳の時に池田に入植。年を取ってからたばこを覚え、一日に一箱ぐらい吸っている。現在は孫の家族と暮らし、ひ孫と遊ぶのが楽しみ。

松岡めつゑさん（五位）

富山県で生まれ、四歳の時に五位に入植。月二回、老人福祉センターへ行って温泉に入るのが楽しみ。ひ孫の子守り、ご飯の支度、座布団カバーを作ったりもする。

山崎　己作さん（日新）

渡島管内知内町で生まれ、二歳の時に白人に入植。四十歳からは現在地で農業を営む。運動のために庭そうじやまき切りをしている。晩酌も欠かさない。

米山　クマさん（本町）

徳島県で生まれ、二歳の時に明野に入地。近ごろは寝たり起きたりの毎日だが、ご飯は一日三食きちんと食べることを心掛けている。テレビを見るのが楽しみ。

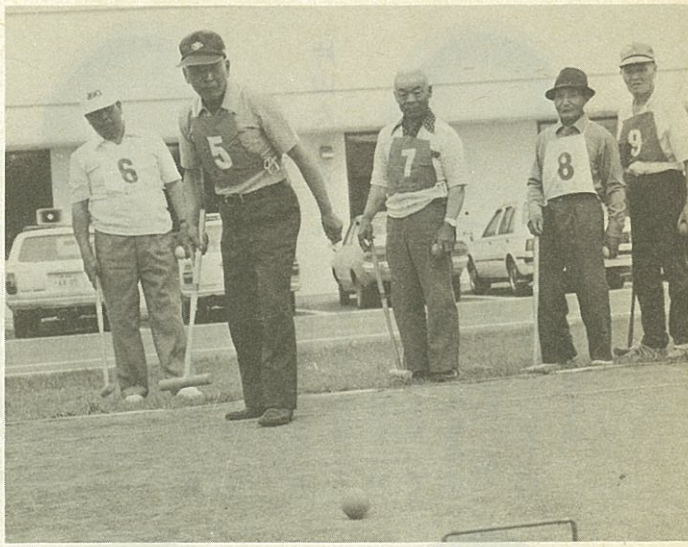
熟すのです

での1日

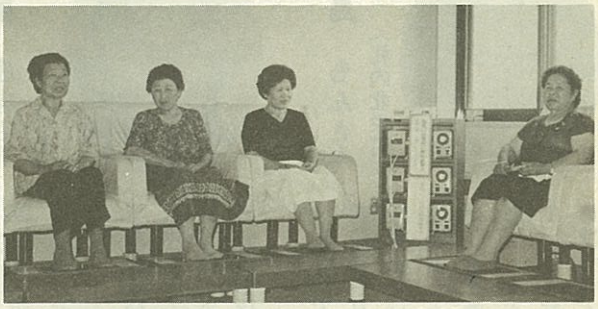
老人福祉センターは、生活や健康相談、教養の向上、レクリエーション活動、老人クラブ運動の向上など健康と福祉を目的とした施設で、町の「福祉村」構想の一環として、昭和五十七年四月にオープンして約一年半になります。

センターの一日をカメラでスケッチし、利用者の声を寄せていただきました。

町ではセンターがオープン以来、町を六つの地区に分け、月二回ずつセンターまで、老人福祉バスを運行しています。



第1ゲート、うまく通るかな？



肩こりや腰痛にも効きます（ヘルストロン）

歌や踊りには拍手と笑いが……

どう？私のポーズ（八十九歳の晒谷ちよさん）

血圧、だいじょうぶですヨ（健康相談）

岡田　改さん（80歳）

相川153

〈幕別線〉

幕別、南町、緑町等老人クラブの仲間百三十余名と利用させてもらっています。センターまで二十分位で着きます。到着すると集会室で日程の説明をし、その後入浴する者、ゲートボールを楽しむ人、ヘルストロンを利用する人々、と午前十一時ころに当番がお茶のサービス、クラブからお酒が少々配ぜんされ食事をします。

午後からは、演芸等でお互いが思い思いに楽しみます。こんな楽しい事はありません。

沢崎駒治郎さん（79歳）

札内春日町297

〈札内線〉

センター行きバス札内線で、月二回八十余名の老人と利用しています。到着そうそうゲートボールを始めますが、なかなか難しく最初のゲートをボールがうまく通過してくれません。

ゲートボールで汗を流して、仲間と入るふろは大変気持が良いもんですが、一度にたくさんの人たちが入れないのが少々残念に思います。「踊り」を楽しみ「カラオケ」でのど自慢と実に愉快な一日を過ごします。

松岡正二さん（69歳）

明倫146

〈明倫線〉

今では、老人福祉センターへ行くのを一番楽しみにしています。

美川、日新線の人たちといっしょに月二回利用しますが、そのうち一回ヘルパーが来てくださるので安心します。やはり急病人が出ると心配になるからです。また、ヘルパーのかたから踊りを教えてもらうこともあります。自分のクラブではゲートボールのメンバーがそろわないので、他のクラブの人たちと交じえてゲームをしますが、和やかな気分で楽しんでいます。

田村賢一さん（70歳）

中里580

〈駒畠線〉

糠内老友会の仲間とセンターを利用しています。やはりゲートボールをするのが楽しみです。老人にとって健康が一番ですし、頭の運動にも、また、親ぼくを図るのにも役立っています。町のゲートボール同好会が発足したころから続けていますが、あまり上達しません。本当に難しい競技だと思います。

また、お茶を飲み、お菓子をつまみながら、昔話に興じ、仲間一人ひとりが楽しい一日を送って帰りのバスに乗ります。

老いるのでなく

老人福祉センター

陶芸ってほんとうに楽しいですネ（しらかば大学陶芸部）

菊づくりは基礎から……（しらかば大学園芸部）

温泉に入ってますます元気！

みんな集まっての昔話は楽しいものです

久しぶりの対局は力が入ります

なかなか決まってますネ

助川秋好さん（66歳）
新和162
〈新和線〉

老人福祉の推進は、物心両面に渡る思いやりだと考えます。

センター行きバスで月二回利用しておりますが、たくさんの老人が楽しみ喜こんでいます。

環境も整備され、もっと多くの老人が利用されては、と感じます。

健康を保持するためには、快食・快便・快眠と言われますが、それよりも大事なのは、空気と太陽です。多くの老人は、生活を共にする家族の温かい応援が必要だと思います。

高橋實吉さん（66歳）
栄378
〈古舞線〉

私たち老人は今、改めて町民として余生を安楽に過ごせる生きがいをかみしめています。古舞線は終点まで二十キロ、飽きることない景観に満喫し、センターでは碁をたしなむ者、のどを披露する者、朗らかな談笑の中に「開拓」より困難を雄々しく耐え抜いた、善男善女の尊い姿があります。くつろぎと憩いの施設として、また、人生の夢とロマンのオアシスとして、いつまでもその恩恵に浴し、持続できますことを念願します。

吉田重男さん（73歳）
宝町151
〈しらかば大学生〉

オープンから利用していますが、今ではもう私の研修の場であり、憩いの家であります。園芸作業を終え、温泉につかって疲れをいやし、ゲートボールで若返り、ヘルストロンで体をほぐす。いつも仲間と生きがいへの活動は、明日への活力のバネとして次の訪れの日が待たれます。多くの老人に利用されるため、幕別よりの温泉往復バスの連絡、また、土・日曜の全日利用（特定の日でも）ができればという声が聞かれます。

西村清吉さん（65歳）
札内新北町181
〈しらかば大学生〉

風光明美の丘、日高の連峰を真向いに眺める環境に設置された老人福祉センター。その一角に陶芸部の焼窯室があります。日勝窯元谷本杉雄先生の指導をいただき花瓶、水盤等の制作に努力しています。私たちの夢は、作ることに楽しみと生きがいを求めることはもちろんですが、作品が土産物として認められ、町へ少しでも還元できる手助けをしたいと思います。良い施設、良い師に恵まれた我々は幸福者であることを自覚し努力します。

幕別町商工会 盆踊り一題

札内特養老人ホームV3
—商工夏まつり盆踊り大会—

3年連続団体優勝の「札内特養」

札内特養老人ホーム代表者の話

ほんとうにうれしいです。三年連続優勝するとは考えていませんでしたから。ホーム職員二十余名の参加でしたが、衣装等はみんなで協力して作りましたが、頭の部分が難かしかったです。仮装のアイデアは職員親ぼく会で決めました。優勝できたのはみんなの力だと思います。

〈成　績〉

●団体の部　（踊り名）

優　勝　札内特養老人ホーム（勤王隊）

準優勝　スーパーかとう（奴踊り）

三　位　明野工業団地（一般盆踊り）

四　位　役場交友会（小便小僧）

五　位　寿同好会（おてもやん）

●個人の部

優　勝　飯渕　覚（渡世人）

準優勝　小野邦子（おしん）

三　位　三坂隆明（さぎ舞）

四　位　三坂正章（はちとちょう）

五　位　中島スミ（農村に花嫁を）

女性ドライバー友の会V
—ふるさと祭り10,000人参加 盆踊り大会—

2回目の団体優勝を飾った「友の会」

女性ドライバー友の会代表者の話

今年は四回目の出場ですが、参加することだけと思っていましたので優勝するなんて、うれしいです。仮装のアイデアは、自然と出ましたが、主婦の人たち忙しいですから参加者を集めるのに苦労しました。これを機会に「友の会」が多くの人に理解され、さらに発展することを望んでいます。

〈成　績〉

●団体の部　（踊り名）

優　勝　女性ドライバー友の会（交通安全）

準優勝　旭町第四公区（アンコ椿は恋の花）

三　位　札内農協野菜出荷場（ハッピーかあちゃん音頭）

四　位　ファイトピエローズ（ファイトピエローズ）

五　位　札内南小父母の会（ものずき奴）

●個人の部　（踊り名）

優　勝　秋江恵美子（旗本退屈男）

準優勝　和泉　忍（舞子さん）

三　位　杉山美雪（沖縄エンタ）

四　位　高橋尚子（ハワイ踊り）

五　位　大橋六郎（ハワイ踊り）

佐藤志げ子（森の石松）

個人優勝——飯渕　覚さんの話

うれしいです
初出場での優勝
ですから……。
仮装は「渡世人」で
踊りました。
六十一才になりますが
踊りは好きです。

個人優勝——秋江恵美子さんの話

七年前に優勝して
いますので今回で二度
目になります。
踊りは我流ですが好き
ですからね。
少し疲れましたが
うれしいです。

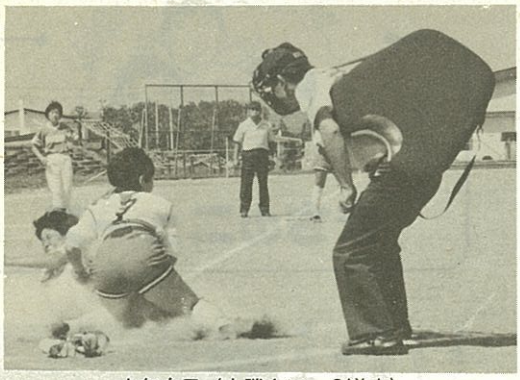
剛球 華麗 熱闘

国体ソフト道予選

少年女子 十勝地区がV

第三十八回国体ソフトボール道予選が八月十三、十四日の両日、幕別小、幕別中両グランドで、全道各地から三十チーム、四百人の選手が参加し、少年男子、成年男子、成年女子の三クラスに分かれて熱戦が繰り広げられました。

全道のトップレベルの高い技術やマナーを目の当りに見ることができ、これを機会に町内のソフトボールがよりいっそう盛んになることが期待できます。



ホーム タッチアウト

少年女子（十勝1×—0道南）

【少年女子】 ▽決 勝

釧路	0	0	0	0	0	0	0	0
十勝	0	0	1	0	0	0	×	1

熱闘

少年女子 決勝

「少年女子」十勝チームで出場の渡辺はるみ捕手（南町）帯南商二年

応援ありがとうございました。優勝できてほんとうにうれしいです。

【成年男子】 ▽決 勝

恵庭自衛隊2—1松前クラブ（延長十四回）

剛球

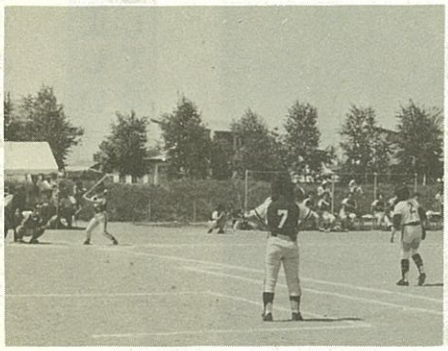
準決勝（陸別クラブ0—1松前クラブ）

【成年女子】 ▽決 勝

札幌大和	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
帯広川西農協	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

（延長九回）

華麗



（川西農協3—1ナナカマド）

健康カルテ ㉗

〝痴ホウその③〟

今回は、ボケたお年寄りの介護についてです。

どんなにボケた状態になった人でも、心を持った人間です。その心や動作の中に『人間らしさ』が残っています。

こんな話があります。話し掛けても反応のない老人がいました。家族は「もうボケてしまって耳も聞こえない」と思って部屋に閉じ込めていました。ある日、家族の人がふと思い付いて、紙に「おばあちゃん元気？」と書いて見せてみました。するとおばあちゃんの表情がパッと明るくなって、うんうんとうなずくのです。それからは家族の人も老人の身の周りのことを気遣うようになったということです。でも、こんなふうにうまくいくことは少ないかもしれません。痴ホウ老人と接するときは、この人間らしさを見つけることが第一だと思います。そして、それを受け止めて、どうしたら人間らしく生きられるのかを考えるのです。それには介護者の〝イライラ〟は禁物です。相手のペースに合わせてじっくり対応しなければなりません。

こんな話もあります。あるおじいさんが、部屋の隅にたまるホコリを「虫だ」と信じ、家族がゴミであることを話しても聞きません。おじいさんの言い分はこうでした。「虫は朝出るが夕方は出ない。部屋の隅にかたまりぜんぜん動かない。殺虫剤を部屋にまくと出なくなると思う。でも殺虫剤は体に悪い。」

そしてカウンセラーは提案し「虫が動かないのならほうきで一ヵ所に集めて殺虫剤をまいたらどうだろう」するとおじいさんは納得して虫の出る朝に毎日ほうきで虫を集めて、殺虫剤をスプレーしているそうです。これはひとつのだましとも思えますが、この方法でおじいさんは調子が良くなったのです。

今まで三回にわたり痴ホウについてお伝えしましたが、介護のしかたにしても、その人の状態によって一概に言えることではありません。

何かお困りのことがありましたら保健婦に相談してください。

まちのニュース

みんなのお願い

◀札内交通安全実践会では、八月三日に札内市街で交通安全パレードを行い、小学生の音楽隊やバトンガール、交通導員など百二十人が交通安全を訴えていました。

▶札内泉町公区では、八月十二日に交通防犯座談会を開きました。この日は、子供八十人、大人四十人が出席し、交通事故の映画や腹話術を見て、安全を誓い合いました。

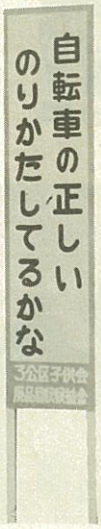
女性ドライバー友の会では、新川の国道38号線沿いに『平和な家庭は無事故から』と書いた看板を立て、ドライバーの人たちに安全運転を呼び掛けています。

▶**五十万人目！**

幕別温泉ホテルの宿泊利用客が先月の一日、五十万人を達成。石川県の片倉さん一家は大喜び。

◀**廃品回収の益金で……**

札内中央町第三公区の子供会では、二年前から行ってきた廃品回収の益金五万円で、会旗と交通安全などを呼び掛けた立て看板三枚を作りました。



▼みんなできれいに

旭町第4公区では、公区内の公園や道路の縁の草刈りを実施し、早朝6時から50人のかたが協力して、きれいになりました。

幕別風土記 二

こんな近くに川があって、アキアジを捕ったことがないんですわ。魚を捕まえるのが好きでなかったからですよ。

相川360番地
塚本　清吉さん(83歳)

私は、明治三十三年三月十九日現在のところで生まれました。

開墾当時は生まれていなかったもんで、開墾の苦労は体験していないし、住宅は親せきの人たちに立派なものを建ててもらうしね、昔の草小屋での寒さも体験していないんですよ。

二十三歳から本格的に農業を後継いだんですが、大正十一、十二年の水害は大変なもんで、その後始末をするのに兵隊から帰ったようなもんでした。大正十一年の大洪水ですが、父親に聞いた話によると、朝の暗いうちに目を覚すとど・じゃ降りの雨であって、急激に増水したため避難の機会を逃した人たちは天井や屋根を破って脱出し、屋根の上で救助を求めた人がずいぶんいたそうです。翌日の早朝になって消防組員や自警団員によって救助隊が組織され、濁流の中を丸木舟で救助されたそうです。

被害は、田畑はもちろん全滅したし、家屋の流失、馬、豚なども流されて、それに床上浸水もずいぶんあったと聞いております。

食べ物は、自分たちの畑で作った麦、芋、イナキビ、トウキビ、カボチャなどで、魚はアキアジぐらいなもんで、肉は食べなかったし、正月とお盆は米五升、しょうゆ一升とかを買ってきたもんでした。私は、アキアジを捕ったことがないんですわ。こんな近くに川があって子供でも捕えるのに塚本さんは捕らないなんて、みんなに笑われたもんでした。それも魚を捕まえるのが好きでなかったからですよ。昔はアキアジがたくさんいたもんで、釣るでなく捕まえるといっていたもんでした。

今は、電気製品が普及し、自動車も自由に乗れる。

本当に住みよい世の中になったもんですね。

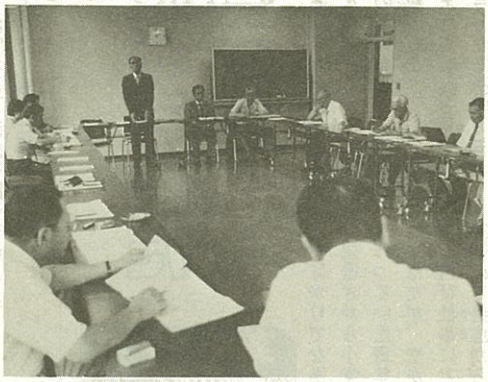
芝桜一株運動

明野ヶ丘公園

明野ヶ丘公園のスキー場斜面に町民の手で〝芝桜〟を植えるための住民組織である「明野ヶ丘公園芝桜一株運動推進委員会」が結成されました。

芝桜の植栽は同公園を町内外にアピールする目玉として、毎年町民による一斉植栽日を設け、住民の参加と協力によって今後五年間でスキー場の斜面を芝桜で埋める予定です。

芝桜は、淡桃色などの花が五月から六月にかけて咲き、沿道から山がピンクに染まって見えるようになります。一斉植栽日は九月十八日午前九時から正午までの三時間が予定されています。



▽委員長・大久保正司(観光協会会長)▽副委員長・山崎武雄(札内農協組合長)▽同・高橋ユキ(婦人団体連絡協会長) ▽総務部長・笹井俊治(商工会会長)▽同副部長・六郎田勇(議員会会長)▽同・豊田満代(消費者協会会長)▽同部員・谷地田豊四郎(議友会会長)・富谷晴一(幕別農協組合長)▽企画部長・木村正夫(ロータリークラブ会長)▽副部長・高橋次郎(手づくりの町推進委員会会長)▽同・菅好弘(青年ボランティア連盟会長) ▽同部員・木村正夫(体育連盟会長)・大内憲一(三師会会長)▽収集部長・石田勝市(文化協会会長)▽同副部長・内野和夫(青年団体連絡協会長)▽同・野村武志(商工会青年部長)▽同部員・角勢意子(婦人ボランティア連盟会長)・山田定雄(民生委員協議会)・長尾玉市(社会福祉協議会会長)・山根悦子(母子会会長)・藤原真知子(商工会婦人部長)▽植込部長・木川拓二(ライオンズクラブ会長)▽同副部長・井沢政助(役場交友会会長)▽同・塚本忠子(幕別農協婦人部長) ▽同部員・柳沢正義(技能士会会長)・柿崎俊男(幕別地域子供会会長)・筒渕健治(札内地域子供会会長)・塩沢俊作(幕別農協青年部長 ・黒島勉(札内農協青年部長)・篠島美子(札内農協婦人部長) ▽事務局・役場開発商工課

短歌 あゆみ会 七月詠草

鈴なりに赤く熟れたるさくらんぼ食みては摘みつつ童のごとく　正田　ヤエ

あかつきの漁火見むと床を抜けみわたす積丹沖の涯まで　大沢美枝子

気にとめし事などなかりし草花に心ひかるる吾となりたり　井上　松野

入院の食事待ちまち窓に寄り庭の梅の實又数へゐる　森田美恵子

曇り空続きたるまま今日も暮れ暗き話題の夕餉となりぬ　鎌田あさの

ご寄付ありがとうございます

■町社会福祉協議会へ……

▽国見正夫さん(札内新北町)から洗車場開店の御祝儀のお返しを廃止して五万円　▽匿名のかたから千円

■老人クラブへ……

▽井田貞夫さん(明野)から明野・新川・大豊長寿会へ三万円　▽久保定行さん(古舞)から古舞老人クラブへ一万円　▽佐藤勲さん(栄)から古舞老人クラブへ一万円　▽猪股タカさん(札内あかしや町)から札内鉄南長寿会へ三万円

■その他

▽匿名のかたから町交通安全協会へ交通安全のために役立ててくださいと千円

屋外遊具を寄贈

ー白人小落成記念特別委員会ー

白人小学校の校舎南側にジャングルジム、ブランコ、回施塔、シーソー、すべり台、雲てい、ロープウェー、鉄棒等の屋外遊具が、「落成記念特別委員会」より記念事業の一環として設置されました。

工事を待ちこがれていた子供たちが毎日楽しく遊んでいます。

新町民登場

大塚哲夫さん

旭町十八

四月に広尾町から幕別小学校に転勤してきました。

広尾は漁業の町で素朴な人が多く、スポーツも盛んで八年間もお世話になりました。

幕別に住んで五カ月になりますが、帯広に近いせいか、まち自体に活気があり、広々とした大地、緑が多く、野菜も新鮮でとてもおいしいですね。

来て間もなく勝手なことを言うようですが、もう少し町の人たちとふれあえる場があれば良いと思います。私もこれからは、できるだけ行事に参加して、一日も早く幕別の住人になれるよう努力したいと思っています。

スポーツが好きですので、町内で行われる大会などのお手伝いもしたいと思います。

FURUSATO-KAN NEWS・46

幕別町ふるさと館
089-05　幕別町字依田384-3 ☎ (0155) 56−3117
AM9:30→PM6:00　毎週火曜日休館

十勝川トレッキング報告●

90年前、開拓者はどんな思いで大津から幕別への道を歩いたのだろう?—開拓者が通ったのと同じ道、全行程およそ四十キロを昔をしのびながら徒歩で踏破する「十勝川トレッキング」を八月六、七日に行ないました。この催しは昨年まで三年間、毎年夏休みに行なってきたサバイバル・スクールに代わるものとして企画した〝ふるさとの歴史探訪・第二弾〟で、幕別町、豊頃町の両教育委員会共催で実施しました。

両町の参加者六十人は豊頃町大津で合流。海を渡りやってきた開拓者たちが降り立った大津の船着場を出発、郷土史の講座をまじえながら、当時内陸部開拓の中継地として栄えた武山市街（現在の幕別町明野・十勝川と猿別川の合流点近く）をめざしました。両日とも雲ひとつない晴天で、気温三十五度。汗だくで「暑い、暑い」を連発する若者に、年配の参加者から「これくらい厳しい方が昔の人の苦労がわかんるでないの」とひと言。バードウォッチングも予定していましたが、あまりの猛暑に鳥たちも木陰でお休み中。

「昔の人は幕別へ着くまでに何足ワラジをはきつぶしたのだろう」「目の前に広がる未開の原野と原始林を見たら、きっと希望より不安の方が大きかっただろうね」などと感想を話し合いながら、延々八万歩のてくてく旅行は無事終了。

見えたかな？開拓の足跡、町の歴史

とうとう歩き通した開拓の道40キロ、8万歩。（千代田大橋）

おんぶされた地蔵さん

幕別ものがたり　第41回
路傍の神
開拓と信仰⑥
糠内の地蔵祭

「困ったなあ。あれがないとほんとうに困るんだよなあ」

「福山さんのじいちゃん、西山のおんじ見なかったか」

「いんや。まだ姿も形も見てねえど。わしも今しがた孫のカヨと来たばかりでなあ」

昼過ぎから小学校の校庭で祭壇を作っていた青年は老人に何やらたずねたが、やがて首をかしげながら再び仕事にとりかかった。今年初めて勢雄から祭りを見に来た孫娘は、不思議そうな顔で、青年の困っている訳を老人にたずねた。

老人は傍らの切株に腰を下ろし目を細めながら娘に話しかけた。

「この祭りはな、地蔵祭だろう。それなのに大切な地蔵が地蔵堂からまだ到着してないもんだから困ってるんじゃ。そうそうお前にはまだ地蔵さんの話をしていなかったな。

この糠内がまだ原野だった頃に初めて開拓に入った五位団体の団長は吉田平一郎という人だった。その人は、身体の弱い娘の千代さんを親戚に預けてきたんだ。ところが心配していた娘さんがとうとう病気で亡くなってな。吉田さん夫婦の悲しみは、はたから見ても とても気の毒で見ていられないほどだった。

その後、団体の砂田直次郎さんが用事で国に帰ることになったので、吉田さんは娘さんの供養のために砂田さんに地蔵さんを頼んだんだ。そこで砂田さんは、富山の金屋村に行って石工にりっぱな地蔵さんを彫刻してもらった。でも彫ってもらっただけじゃただの石像と同じなので、戸出村の永安寺の住職に開眼という魂を入れる儀式をやってもらってな、ようやくほんものの地蔵さんが出来たんじゃ。

こうしてはるばる富山から運ばれて来た地蔵さんを、吉田さん夫婦は毎日熱心に拝んでいたんじゃと。そのことを知った団体の青年たちが吉田さんに、ぜひ地蔵祭をやらせてほしいと言ったら、みんなでやってくれるのならいいと言ったそうだ。そんなわけでな、明治三十四年から毎年八月の二十四日になると、部落の青年たちの手で地蔵祭をやるようになったんじゃ」

長い話が終わりかけたころ、ねじりはち巻きをした青年が息をはずませながら、なだらかな坂をかけ登ってきた。背中には赤い帯でしっかりとおんぶされた優しい目の地蔵さんがあった。

辺りが暗くなると祭壇の周りの松明や提灯に灯がともされた。人々の顔が赤く照らし出されると、その中には止若や猿別や奥糠内の人、それにノヤウシや勢雄や二宮の人の顔も見えた。盆踊りと違って、この日だけは隣り近所の部落や少し遠い親戚や知人も集って来たのだ。お経や御詠歌が一とおり終わると、今度は「よされ」踊りが始まった。いよいよお国自慢の出番だ。先ほどの青年たちも、晴着を着た娘さんにまじって楽しそうに踊っている。

「おい、西山のおんじ。お前なんであんなに遅れて来たんだ」

「腹が痛くて少し休んでたんだ」

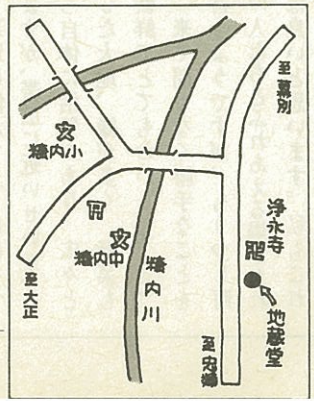
「地蔵さんをちゃんと拝まないからバチがあたったんでないか」

「いやあ、昼の赤飯がな、あんまり久しぶりなもんでつい食い過ぎてしまったんだ。それでな、浄永寺のはばかりさ借りてふんばったら、けろっと治ってしまったわ。あははははは」

「わっはっはっはっはっは」

糠内は富山県西砺波郡西伍位村出身の者を主体として近接の村落の移住希望者を集めて結成された「伍位団体」という移住団体の人々の手により、明治三十一年（一八九八）五月三日に開拓の鍬が入れられた。第一回目の入地者は二十三戸（一二四人）であった。

〈取材・小助川勝義〉



●取材協力　山田　栄さん／西川勇次郎さん／糠内中学校郷土研究クラブ